

JID

NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

1982 8

九州支部57年度総会報告

九州支部では恒例の支部総会を、去る5月15日開催した。今年は例年になく出席者が多く、14名に達した。特に徳山市から加藤さん、延岡市から尾形氏など、遠路わざわざ出席された会員もあり、盛会であった。また、総会後開かれた懇親会の方も実に楽しい雰囲気、会員相互の親睦と交流を深めることが出来た。以下簡単に報告とします。

日時 昭和57年5月15日(土) 4:30~7:30PM

場所 福岡郵便貯金会館(福岡市中央区薬院)

議題 ① 昭和56年度事業報告

昨年の役員会、支部総会、見学・学習会、臨時総会、忘年会、'82作品展運営委員会及び会計報告

② 協議

・昭和57年度事業計画

7月の見学会、11月16日~26日の“作品展”、永井コレクション“世界のイス展”、1月上旬の新年祝賀会、その他

・57年度支部役員について

・九州支部代表理事 中川千年氏

・九州支部長 坂本康四氏

目次

●九州支部 57 年度総会報告	1
● '82 JID九州作品展・世界のイス展	2
●事業委員会としての事業企画書案	2
●「野口記念賞」募集要項決定	4
●各事業支部で組織づくり進む	6
●デザインコンペ4題	7
●“日本の町なみ” 檳原市今井町を見学	8
●佐賀県立陶磁器文化館・岩尾磁器見学会報告	9
●OA, HAの見学はいかが	12
●サンフランシスコ便り(その5)	12
●インテリア産業振興対策委員会 中間報告書から(第2回)	16
●事務局短信	18

・役員 総務 菊竹清輝, 溝口 新

広報 山永耕平, 箴島良介

・事務局(〒818) 筑紫野市諸田 116 溝口 新宅

TEL 092-926-2112

・作品展についての経過報告と今後の運営について

以上について報告, 協議等順当に議事進行した。引き続き懇親会を開催した。

出席者(敬称略)

加藤純子, 堤 久夫, 尾形 栄, 中川千年, 石井信義,
幸重篤典, 坂下 昌, 菊竹清輝, 中村忠司, 天本静夫,
坂本康四, 永井敬二, 山永耕平, 溝口 新

(九州:事務局)

'82JID九州作品展・世界のイス展

昨秋より計画され, 「JID NEWS 3月号」で既報の
“作品展”などが, いよいよ具体化して来ました。九州事
業支部では運営委員会を設け, 細部についてのつめを行っ
ています。以下, その計画案です。

- ① 展示会のタイトル — JID九州作品展・世界のイス展
- ② 作品展への出品状況 — 現在九州支部関係で 16 名の
出品申込があります。パネル展示については, B 3 判の
イラボードをタテ型に使用して, 1 組 4 枚程度の展示を
予定しています。
- ③ 講演会を併催する予定 — 一般入場者を対象に, イン
テリアデザイン関係の講演会を会期中, 日曜日に行う。
- ④ 会期: 11月16日~21日の6日間
- ⑤ 場所: 福岡市美術館(福岡市中央区大濠公園)
- ⑥ 後援: 西日本新聞社に協力依頼をする他, 日本室内装
備設計技術協会(SSS)や, 全九州工芸連合会, その他
有力関連団体等に協賛を依頼する予定。
- ⑦ 本部よりもJIDのPRパネルを提供するなど, 積極的
に支援することとなろう。
- ⑧ 同時開催の世界のイス展
会員の永井敬二氏にその内容は一任してあるものの,
九州作品展の展示スペースが確定次第調整, 協力して行

くこととなりそうです。

- ⑨ その他, JID事務局(〒818 筑紫野市諸田 116
溝口新宅 092-926-2112)が運営委員会の事務局
です。
(九州:事務局)

事業委員会としての事業企画書(案)

この企画書は, 第13回・通常総会(56年5月)にて設
置された事業委員会が, 今後の事業活動の経常化のために,
事業委員会として作成した事業企画書(案)である。

そのための討議は, 56年9月4日の第1回事業委員会に
始まり, 57年3月7日~8日の全国会議(熱海)において,
大筋ではあるが具体的方向を得るに至り, そして, 去る3
月23日に開かれた56年第6回に提出した概要である。

今後の具体化にあたっては, 理事会での討議をはじめ,
各委員会・各事業支部・全会員のご理解とご協力をお願い
したい。

● 事業企画の前提として

改正された委員会細則による事業委員会の役割は, つ
ぎのように決められている。

1. 全国的な規模で実施する事業に関すること。
2. 共催または協賛事業に関すること。

これまでの経過上のことを踏まえながら, まず, この
ような事業から, その狙いを考えてみると, それは「協
会の事業活動を経常化していく中で, 対社会との接点を
旺盛にして, その密度を高めていくこと」

つまり, あるサイクルのもとで, 事業の経常化と活性
化を図りながら, 対社会に対して協会の存在を知らしめ
ること, そして, その活動を積み重ねることによって,
会員の職能の確立を, なお一層強固なものにしていくこ
とにあると考えたい。

さらに事業企画の前提として, 私達がどのようなと
ろに立たされているのかという意味から, いま一度「協
会の存在」を再確認しておくことが大切だろう。

私達の協会には, 協会の存在を示すものとして, 「協
会の憲章」があり, そこには「会員の資格・職能・報酬
・職責・責務」についての大切な約束事が掲げられてい
る。さらに協会には, 組織や業務に関する規則を決めた
「協会の定款」がある。そして, その定款の第1章・総

則には、協会の「目的」と、その目的を達成するための「事業」が決められている。

よって、協会の存在のすべては、ここに立脚されているので、これを前提に、さまざまな事業企画が考えられなければならない。

つまり、この道の専門家として、仕事の関係がうまく保たれるだけでなく、専門家集団として関係団体や一般ユーザーとの交流の場が持たれ、その相互関係の中で、共に歩んでいこうとする姿勢が前提となるだろう。

私達は、いま一度、協会の存在を認識し、会員1人1人であると同時に、協会として、内には内部充実を、外には絶え間のない問いかけとしてのアクションを持続していかなければならない。

さらに、これらのことに関連して、それを数値的にとらえたものとして、「80年代へ20分」と題した。「80年代の会員と協会に関するアンケート調査」の結果があるので、これも、いま一度振り返ってみたい。

これによると、協会が行う「社会的啓蒙の充実や広報活動」の必要性を求める会員が86.9%(正会員)に達したことを分野別にみると、一般ユーザーをトップに、マスコミ関係・生産省・建築関係・財界・政界・官界・経営者・インテリア業界というようにさまざまな分野を望んでいたこと、そして、具体的行動にあたっては「協会が独自に年間キャンペーンをつくり展開する」といった協会の主体性に重きを置くだけでなく、マスコミ・国の機関・特殊法人・民間団体などとの連携プレーを求めている。

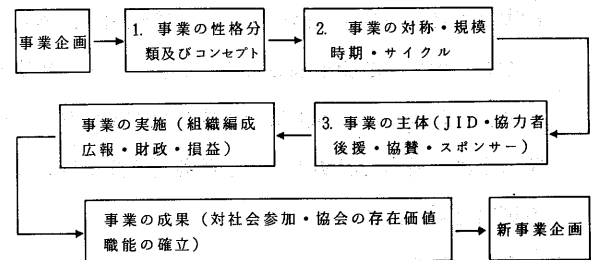
「会員であることのメリットとは」という設問に対しては、「協会が職能確立のために活動してくれる」という声が大変多いが、それは前述した意味の、具体的事業活動の活性化の中から、始めて生まれ出てくるものと思われる。

● 事業企画のためのエスキース

一口に「事業企画」といっても、

1. 現実的・将来的に経常化できそうなもの、そして、そのサイクルは。
2. テーマとして既知的なものと未知的なもの。
3. テーマと金集め、人集めの方策は。
4. 特定・不特定といった対象は。

などといったように、さまざまな検討すべき事柄が出てくる。そこで、今後の事業計画立案のために、まず、考えられそうなことを「事業企画のためのエスキース」として以下のようにまとめた。



以下、詳細のエスキースは誌面の都合により省略し、項目のみとした。

① 事業の性格分類及びコンセプト

- 1-1 研究・スタディ
- 1-2 エキジビション
- 1-3 エデュケーション
- 1-4 情報・インフォメーション

② 事業の対象・規模・時期・サイクル

- 1-1 特定の対象群
職業群・年齢群・教育群・関係団体群・関係企業群
- 1-2 不特定の対象群
- 1-3 事業の規模
- 1-4 事業の時期
- 1-5 事業のサイクル

③ 事業の主体(JID・協力者・後援・協賛・スポンサー)

- 1-1 官公庁・署など
- 1-2 公社
- 1-3 公団
- 1-4 事業団
- 1-5 官庁に準ずる法人
- 1-6 教育
- 1-7 その他

● 事業企画の具体化へ

1. 事業企画のための基本方針

定款の定め通りに、協会の活動の根幹である目的(第3条)を達成するため、諸事業(第4条)を行う。それには、主体性のある活動の経常化を図る中で、

組織の活性化と対社会との接点を旺盛にし、その密度を高めていくための効果的な事業計画をたて、それを実行する。

さらに、今後の事業の具体化にあたっては、対内的活動と対外的活動を明確化し、効果的運用を計る。

なお、効果的展開を図るため、協会として「年次テーマ」等の設定と、各委員会の横の組織をつなぎ、事業の企画・運営を討議する「企画運営会議」等の設置を理事会に求める。

2. 事業運営会を中心とした事業内容

以下は、事業委員会全国会議にて、事業企画の前提及び事業企画のためのエスキース（別紙）をもとに論議し絞り込んだ結果である。

(1) 日本インテリアデザイン会議の開催

そのための企画・立案・実施（テーマの設定、開催年の検討、開催形態の検討ほか）3～5年サイクル

(2) 各種の研究会の開催

研究発表会（年次テーマに沿ったものを含め）、会員相互の研究会活動、講演会などの企画・立案・実施

毎年1回、いずれの継続開催

(3) 展覧会の開催

年次テーマに沿った展覧会とし、そのための企画・立案・実施。隔年開催のサイクル

(4) 講習会の開催

インテリア産業セミナーの開催

3. そのほかの事業活動（ほかの委員会で考えられる企画）

以下は、事業委員会全国会議にて、同時に論議した結果、経常化事業として取り組むべき内容と思われるので列記した。

(1) インテリアマップの発刊

これまでの好評の声をバックに「インテリアマップ西日本版」の新企画、インテリアマップTOKYO '83～'84」の継続企画をたてる。

但し、これまでの犠牲的ワークについては再考の余地あり。

(2) 日本のインテリアデザイン(4)の発刊準備

これまでの実績をもとに継続企画の準備、発刊のサイクルを決める。

(3) 賛助会員への対応

これまでの論議をもとに、レファレンスサービス及び講習会、社内教育、アドバイスサービスなど、賛助会員の要望に答える事業。賛助会員のメリットを再考し、賛助会員の増強を図る。

(4) 広報・情報・PR活動の充実

出版会との協同活動（例、室内・ジャパンインテリア・日経アーキテクチュア・ジュノン他 一般誌・専門誌問わず）として、各媒体の中に「JID」のページを設けるなど、出版社とのタイアップ事業。

4. 昭和57年度・事業委員会・事業計画

(1) 経常化のための企画・立案作業を継続して行う。

(2) 「インテリア産業セミナー」を開催する。

(3) 「日装連」委託の事業（講習会）に協力する。

(4) 「日本インテリアデザイン会議」の企画・立案を行う。

(5) 「展覧会」の企画・立案を行う。

(6) 各種研究会の企画・立案を行う。

(7) 各事業支部との連携による効果的事業の推進を図る。

以上

（事業委員会：委員長 秋山修治）

〈56年度 JID・事業委員会〉

委員長・森谷延周 委員・秋山修治・内村 麗・海老沢宏・岡部史子・阪井良種・寺原芳彦 関東・村形省 関西・富田卓司 中部・池田高明 九州・溝口新 副理事長・泉 修二

「野口記念賞」募集要項決定

新年度に入り細部検討が行われていた「野口記念賞」も、去る7月20日、都内の主な専門学校関係者にお集まりいただいたの意見を踏まえその要項が決定された。7月中に各事業支部を通じて関係先へ配布、応募を呼びかけることとなります。以下が要項の概略です。会員の方々のご協力を得て、学生諸君の優れたデザインが多数集まるようにしたいものです。

社団法人日本インテリアデザイナー協会主催

1982年度 野口記念賞募集

1. 趣 旨

デザインという行為がようやく社会的に定着してきた今日、その半世紀にわたる歴史を担ってきたデザイナーによる様々な仕事も、優れた人材を育成した我が国のデザイン教育によることが大きいと思われます。

この度、55年に他界された野口寿郎氏の御遺志と、御遺族の御厚意による御寄付を基金として、デザイン学生への励みとなる賞を設置し、故人野口氏の業界における多大な功績を長く記念する意味で「野口記念賞」としました。野口寿郎氏が、専門教育を受けず独学でデザイナーの道を切開かれ、多くの優れた作品を残されたことを意とし、御遺族の要望もあり専修学校の学生に的を絞る、毎年優秀な作品に対して賞を授与するものです。

2. テー マ

現代の生活環境の中で、生活をより豊かにするインテリアとはどのようなものか、在学中にあなたがデザインした独創的なインテリアを構成する要素（家具・照明器具、テキスタイルなど）のデザイン作品を募集。

3. 対 象

日本国内の専修学校。認可された各種学校に在学する学生（1982年12月31日に在籍するもの）、国籍は問わない。

4. 応募作品

応募作品は新規、未発表のもの。

(1) 予備審査、第一次審査応募作品

作品の内容を表わした3枚以内の35%カラーサイドおよびデザインの意図などを記載した出品票（各学校に配布された所定のもの）

(2) 第二次審査応募作品

図面（三面図、詳細図など）、完成予定図、模型写真などを貼ったパネル3枚以内（パネルはA1判で木製パネル貼の作品は不可）および第二次審査用出品票（各学校に配布された所定のものを各パネルに貼布）

5. 応募方法

- ・出品料は無料、ただし応募の際の所要経費は出品者の負担となります。
- ・応募点数は1名又は1グループにつき1点。

- ・申込みは個人又はグループとし、グループのメンバーは同じ学校に在籍するものに限る。

- ・所定の出品票（各学校に配布したもの）に必要事項を記入の上、カラーサイドを入れた封筒の表に貼布して学校に提出。

6. 応募期間

予備審査募集 〆切……………1983年3月1日

（各学校へ提出）

第一次審査募集 〆切……………1983年3月15日

（協会事務局へ提出）

第二次審査募集 〆切……………1983年4月10日

（協会事務局へ提出）

7. 審査方法

(1) 予備審査

提出された応募作品は、各学校で予備審査を行い、それぞれ代表作品3点以内を原則として選考

(2) 第一次審査

各学校で選考された代表作品（カラーサイド）により第一次審査。代表作品は1983年3月15日まで（㊦）日本インテリアデザイナー協会事務局で受付。郵送の場合は3月15日付消印まで有効。審査結果は1983年3月31日までに各学校に通知。代表作品（カラーサイド）は原則として返却しない。

(3) 第二次審査

第一次審査を通過した代表作品（カラーサイド）のもととなった図面、スケッチ、写真などを貼ったパネルにより第二次審査。

応募作品パネルは、各学校でまとめて1983年4月10日までに（㊦）日本インテリアデザイナー協会事務局に提出。郵送の場合は、4月10日付消印まで有効。審査結果は1983年4月27日までに各学校に通知。

8. 審査員

社団法人 日本インテリアデザイナー協会選考委員会

9. 発 表

入賞者の発表は、新聞、雑誌などに発表。

10. 表 彰 式

1983年5月末に行われる（㊦）日本インテリアデザイナー協会通常総会において、協会賞と同時に行う。

11. 賞

野口記念賞……………1名(賞状,副賞)

野口記念奨励賞……若干名(賞状,副賞)

12. 事務局

社団法人 日本インテリアデザイナー協会事務局

尚,要項は事務局にあります。お電話下さい。

(03-403-3649)

各事業支部で組織づくり進む

7月に入り,各事業支部から本年度の事業活動の核となる組織づくりの結果が続々と寄せられて来ました。大世帯の関東事業支部では,事業支部活動についてのハガキアンケートを実施中で,若干組織づくりに時間がかかっています。以下,支部長をはじめ3支部の委員の方々です。

● 事業支部組織

新年度会員名簿進行中

新年度(昭和58・59年版)の会員名簿の作成が進行中です。以下,お願いの諸点を列記しますので,該当会員は積極的にご連絡をお願いします。

④ 転居,住居表示変更,改名,電話番号変更など,8月以降予定されている方で,すでに内定のもの。

⑤ 前回どうしても適当な顔写真の用意ができなかった方,資料不足の方は追加を。

●印刷所への原稿渡し予定:8月10日

尚,連絡上のミスを避ける意味で,できるだけ葉書,封書等でのご連絡をお願いします。また,56年10月以降の新入会員(正会員番号No.482, 準会員番号No.145以降)の方へは,別便で記入用紙をお送りいたします。

支 部	支 部 長	委 員 会 (委 員 長) , 委 員
関 東	わたなべひろこ	吉 良 ヒロノブ 増 本 敏 治 内 田 次 彦 高 田 紀久枝 尾 上 孝 一 (古 谷 悟 嗣)
関 西	川 崎 浩	・支部運営委員会 川崎 浩, 富田卓司, 樋口 治, 金子誠之助, 山口道夫, 南原七郎 ・総 務 金子誠之助(委員長), 柏原秀夫 ・事 業 山口道夫(委員長) ・見 学 並川拓史 ・展 覧 会 近沢晴雄, 夏原晃子 ・研究・教育 山内陸平, 中村隆一 ・広 報 南原七郎(委員長), 式田 完, 鈴木儀男, 安永一典, 石村徹之, 井上喬子
九 州	坂 本 康 四	・総 務 菊竹清輝, 溝口 新 ・広 報 山永耕平, 箴島良介
中 部	林 寅 正	・総 務 本多正之, 堀内啓二 ・事 業 池田高明, 山本隆嗣 ・広 報 田村 悠, 小柳朝一 ・北陸地区委員 小松曉一, 栃谷賢一

(表中 順不同)

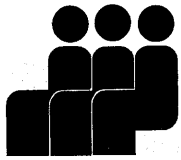
ましたので、それを必ず使用して下さい。

(事務局)

デザインコンペ4題

以下、4種のコンペ情報です。詳細は要項をご請求下さい。

「新しいオフィスファニチュア創造の国際コンペ」



- 主催：フランス文化庁
- 後援：IFI, UIA(International of Architects), ICSID (International Council of Interior Design)

•対象：建築家、インテリアデザイナー、デザイナー、プラスチックのデザイナー

•内容：オフィス活動のさまざまな機能(ワークスペース、収納、ファイリングおよび設備等)を包含する。オフィスの規模(スタッフの人数やスペースの広さ)やコンピュータ化された設備なども考慮されること。照明および来客施設にも特別な配慮が払われること。

•実施に当り次の2つのステージを踏む。

(ステージ1 — アイディアのコンペ)

1982. 9. 15. コンペへの質問〆切

〃 10. 18 質問への回答完了

〃 12. 29(5:00PM) 応募受付〆切

1983. 1. 5~15 ステージ1審査委員会

〃 1. 31 審査結果発表

(ステージ2 — ステージ1のアイディア入賞について
のコンペ)

1983. 1. 31~12. 30 プロトタイプ製作

1984. 4. 1 審査結果発表

〃 4月 展示 — Exhibition at the
"Musée des Arts Decoratifs", in Paris

•国際審査員の顔ぶれ(敬称略)

エドモン シャルル ルー女史(作家, フランス)

シャルロット ペリアン女史(デザイナー, フランス)

フランソア バレ(ディレクター)

マリオベリーニ(建築家, デザイナー, イタリア)

栄久庵憲司(デザイナー, 日本)

イリオ クッカープロ(デザイナー, フィンランド)

ジョージ ネルソン(建築家, アメリカ)

ほかギュイ ヴィダール(フランス, 大蔵大臣)など

(その他審査員5名省略)

•賞金：入賞者10名に対し総額400,000フランスフラン(邦貨約1,520万円)

•その他：英文の要綱コピーはJID事務局まで。

(電話 03-403-3649)

•詳細お問合わせ先

フランス大使館文化部

ローラン・スレット氏

〒106 東京都港区南麻布4丁目11番44号

電話 03-473-0171

「1982年度フィリップス賞募集」

第5回のフィリップス賞の募集が始まっている。同賞は1976年のICSIDブリュッセル総会で紹介されたもので、ICSID後援で行われる。今回も開発途上国に対し、開発的で独創的なデザインの投入を行うことを目的としている。以下がその要領。

•賞金：25,000オランダギルダ(9,230USドル)

•今回のテーマ：

“Man-machine interface”

(人と機械の相互関係)

製品、エルゴノミクス、意義学(セマンティクス)およびコミュニケーションにおけるマン・マシンの相互関係

•要旨説明：産業におけるデザインは、生産とヒューマンニードの概念の変化に適応しなければならない。文化や人間工学上の相違、視覚上のアイデンティフィケーション、小型化、デザインのシステム、あるいは分類などの問題が実際に美的満足を与えるように適応されなければならない。

•〆切：1983年12月31日

•その他：以上につき詳細内容のお問合せは下記へお問合せ下さい。

〒105 東京都港区浜松町世界貿易センター内

JIDA事務局 03-433-6391 ~ 3

「現代商業空間デザインコンペ」募集が決定

JIDも協賛している標題コンペの概略をお知らせします。

- 主催：株式会社 遠藤照明（同社創立15周年記念コンペ）
- 対象作品：1982年5月1日から同年10月30日までの間に、日本国内で完成し、実動している商業空間。
 1. 専門店、ストアなど商品販売を主とする店舗空間
 2. レストランなどの飲食サービスを主とする店舗空間
 3. ホテルその他各種のサービス営業を目的とする施設空間
 4. 百貨店、ショッピングセンター、その他の複合商業空間
 5. その他のもので審査委員会が認めるもの

• 入賞・賞金：賞金総額300万円

金賞 100万円（1点）

銀賞 50万円（1点）

銅賞 20万円（3点）

佳作 10万円（5点）

入選 若干点に対し総額40万円相当の記念品

• 審査員：渡辺一男、宮脇 檀、三輪正弘、松田逸郎、高村英也、古畑多喜雄、奥脇文彦、遠藤良三。（主催者代表）

• 順不同

• 〆切：57.11.15（月）

• 発表：57.12.20までに応募者に通知するとともに商店建築誌（58.2月号）上で。

• 贈賞式は58.1月、東京都内の予定。

• 応募はB3のイラストボード（4枚以内）及び作品の写真（カラー又はモノクロプリント）に依頼。

• 作品募集要項の請求は下記まで。

〒542 大阪市南区谷町6丁目10-26

株式会社 遠藤照明（コンペ係）
電話 06-768-7531

○ JID事務局（03-403-3649）

大阪産業デザインコンテスト

今年は第6回目を迎えました。以下概要です。応募要項は直接下記へ請求して下さい。

• 受付搬入：57.10.21（木）～23（土）

10:00AM～4:00PM

• 発表予定：57.12.1（木）

• 賞：金賞30万円ほか銀、銅、入選など。

• 公開展示：57.12.9（木）～11（土）

• 会場：大阪デザインセンター2階 特別展示場

• 要項請求及び問合せ先

〒541 大阪市東区船場中央2-2

船場センタービル4号館2階

電話 06-262-5661（代）

“日本の町なみ”橿原市今井町を見学

— 関西事業支部 —

去る7月3日（土）、関西支部では7月の見学会を実施した。

以下、簡単ですが報告記といたします。

昨年の羽曳野、堺と日本の民家シリーズとして、今回“日本の町なみ”今井町（国指定重要文化財民家）の見学会を行う。アポイントをとり、称念寺、今井博道住職による今井町の歴史、昨今の暮らしなどの講話は豊かで、ユーモアもあり、数多い著名な見学者とのレポートも興味深いものがあった。



豊田家などの民家は今日のくらしの機能をはたさず、別棟での日常のくらし(すまい)が現状です。これら民家のプラン、スペースの豊かさは江戸時代の富裕な商人の歴史の重さ、また伝統様式を保っており、南大和最大の都市のおもかげを垣間見ることができたようです。

郷愁だけでなく、私たちの、これからのすまい「たたずまい」としてほしいものも多くあったと思われます。

参加者は10数名(会員外含む)で、見学中の地酒が盛りりをそえたかのようにです。

(関西：並川拓史)

家具コンクール展にJID 理事長賞

— 中部事業支部 —

愛知県優良展示会が5月18日～20日、名古屋国際展示場にて開催されました。厳しい経済環境のなか、これを打破し、一大市場の確立をはかるため、広く門戸を開放し、全国家具の交流の場を設ける主旨を掲げて第24回展が開催されました。コンクール展も全国的色彩が強く感じられ、六十社の作品を審査対象として、市場性、品質、技術、意



匠と機能性を採点基準として審査し、中小企業長官賞以下を選び、(社)日本インテリアデザイナー協会理事長賞にはナガノインテリア工業株式会社の居間セット(写真参照)が選ばれました。製品は、

- ① 間口700%でゆったりした座り心地、組合せが可能で部屋の広さに合わせられる。
- ② 箱肘でティーテーブルに兼用される。
- ③ 背は置きクッションなので2脚並べると簡易ベッドとしても使用できる。
- ④ テーブルも伸長出来る機能をもっている。
- ⑤ 塗装は素地仕上で明るく仕上げられている。

尚、審査委員長には本協会の名誉理事 松本政雄氏、会員の堀内啓二が参加しました。

(中部：堀内啓二)

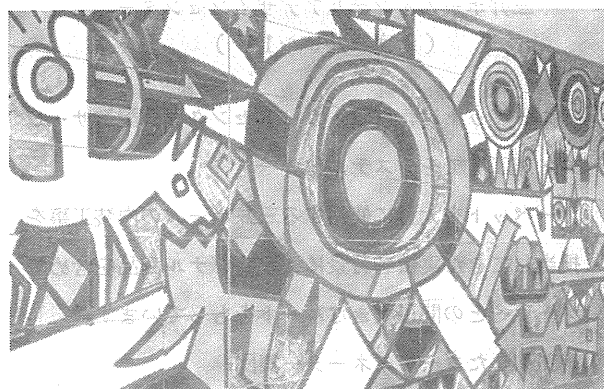
佐賀県立陶磁器文化館 岩尾磁器見学会報告

— 九州事業支部 —

九州地方は梅雨期にはいりカンバツにみまわれ、今年も福岡市では夜間の給水制限を発表した。その翌日の7月10日より恵みの雨が降り喜んだとたん、こんどは熊本では猛雨により各地で被害がでてまことに天候はまならぬものである。そういった7月11日(日曜)の朝から強い雨が降る悪天候の見学会となったが、それでも11名の参加がありもし好天に恵まれたら、もっと多数の参加が期待されたのではなかろうか。

この日、まず陶磁器文化館(56年度完成)を見学した。さすがに有田市で有名な有田陶器の会館だけに日本一の設備、内容をもっている。幸に特別展として鍋島展が催されていて皆さん真剣に観察されていた。

その後、岩尾磁器工業(株)を見学した。有田陶器産地では製造品目として日常和食器、美術工芸品、建築内外装タイルに分類されているが岩尾磁器はタイル部門では有田を代表する工場である。年間売上高80億、従業員540名で、昭和43年には皇居新宮殿ご造営に際し磁製大籠13基、飾り大壺1基、大磁卓3脚を上納されている。



同社による北九州市庁舎のモザイクタイル画

ショールームの見学では係員の技術面、最近のタイル需要の傾向等懇切丁寧な説明を受け稔ある見学会であった。

(九州：箴島良介)

賛助会員ニュース(Ⅰ)

三井ホームインテリア株式会社

東京都新宿区西新宿2-1-1

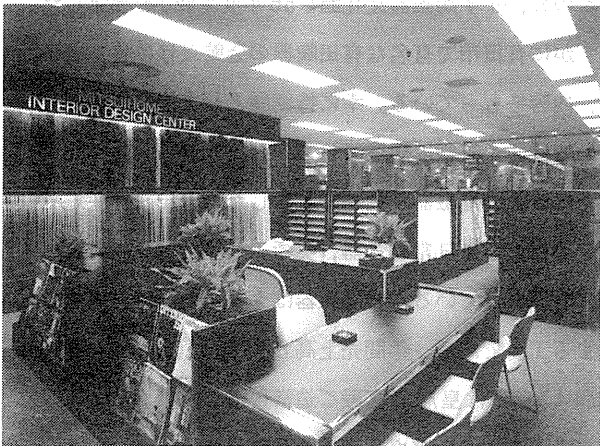
新宿三井ビル17F TEL 03-342-4931

(JID担当：企画部長 安井 篤)

当社は、三井ホーム株式会社内の内装施工部門及びインテリアコーディネートシステムの管理運営をしてきたインテリア室を統合し、昭和55年9月に独立した、トータルな機能をもつインテリア総合会社です。

〈事業内容〉

- ① マンション、店舗、オフィス、ホテルなどの内装・改装をトータルにプランニング。
カラースキームによるプレゼンテーションを行なうと同時に、家具のレイアウト選定、照明のプランニングなど、住まい全体のムードを整えます。



三井ホームインテリアデザインセンター
(新宿三井ビル1F)

- ② カーペットは、倉庫・カットセンター、配送サービス・施工までをシステム化。

カーペットを大量に使用する三井ホームの内装工事を担当してきた実績を背景に、オリジナル商品を含めてメーカーとの間に大きなルートをもっています。

- ③ 熟練したコーディネーター集団

快適で豊かな生活空間の創造を図って、当社では多数のコーディネーターが、インテリアのコンサルティングに従事しています。

カラースキームの作成、造作家具の設計、照明器具、カーテンの選定など、お客さまの納得のいくご相談に応

じております。

賛助会員ニュース(Ⅱ)

(株)岡村製作所

消費者の消費傾向が毎年少しずつ変化することに素速く適応し、新しい消費パターンを売場に提案し、少しでも売上げに結びつけていこうとする傾向がここ数年小売業界では、顕著である。

'81 ジャパンショップのテーマ「新しい消費者 魅せられる店舗 お店の魅力は感度で決まる」も、昨今売上げが伸悩む小売業がもう一度小売業の原点に戻り、改めてマーチャンダイジングの原点とも言われる、売場における感動を消費者へ提供するお店づくりを呼びかけたテーマではないでしょうか。

消費者が感動を受ける売場づくり——既存店では、今年各チェーンストを中心に行われているお店の改装になりますが——に、店舗什器メーカーが、何を提案できるかが、私たちの取組んだテーマです。

題して「提案します。いきいきストア」。

これは、店舗の集客力を増す要素として、店舗什器機器の面から、売場の活性化、消費者に、最も強い魅力を与える売場づくりの為にどのような什器・システムが最も有効であるかを提案いたしました。

その範囲を単に、什器機器の新製品を紹介するにとどまらず、陳列商品の演出方法も提案してみました。提案を7つにまとめましたが、第一に食品売場用として、生鮮3品の鮮度管理方法にタイラーノンデフロストショーケースを紹介しました。生鮮3品の中でも鮮度が強く要求される肉、魚類の鮮度管理に成果を上げているショーケースですが、通常のケースと異なり、除霜時に商品の温度上昇がないことで商品ロスを生まないという特徴を持ち、現在、その成果が全国各地で実証されています。

二つ目の提案は、お店への来店客へのサービスが集中するチェックアウト周辺への活性化提案です。とすると、仕事の生産性に重点が置かれ、対消費者への接客サービスを盛込んだ機器は少なかったのではないのでしょうか。アメリカに次いで数年先に最盛期の予期されるPOS(販売時点情報管理)。このPOSに於ける顧客とチェッカーのサ

ービス動線を分析し、常に両者が相対してのサービスを可能にしたPOSカウンターシステム。POSのメカニズムをすべて分解し、カウンターの中に組み込んだ省スペース設計の製品です。

このコーナーではこの他に、ステンレスパイプで流麗なデザインを強調し、機能の上で、省スペース化を図ったチェックアウトマークⅡも紹介しました。

売場面積の中で比較的広い面積を持ち、しかも、最もサービスの要求されるチェックアウト周辺は、単に人を増やすことで作業の効率化は図れても、生産性はあがりません。まだまだ検討の余地のある場でもあります。

三つ目の提案は、コンピューターを利用した店舗のレイアウトプランニングを紹介しました。科学的データに基づき、お店の立地条件、消費者傾向を分析し、更にそのデータを使ってゾーニング、レイアウト、什器配置、什器見積り、経営指標までその場で画面に表現するというもので、この作業が短時間でビジュアルに表現されることにより、これまで大変な労力と時間をかけて結論を出していた店舗のレイアウト作業が画面をみながら客観的に完成する訳で、又その案もインプットする要因が、詳しければそれだけより密度の濃いものが、得られる訳です。POS導入がますます活発になるに従って、そこから得られる商品情報を、このレイアウト作成の際、インプットすれば、より消費者の消費態様にあった店舗レイアウトができ、更に店舗経営情報も得られますので、店舗経営戦略上、今後非常に利用価値の高いものとなるでしょう。

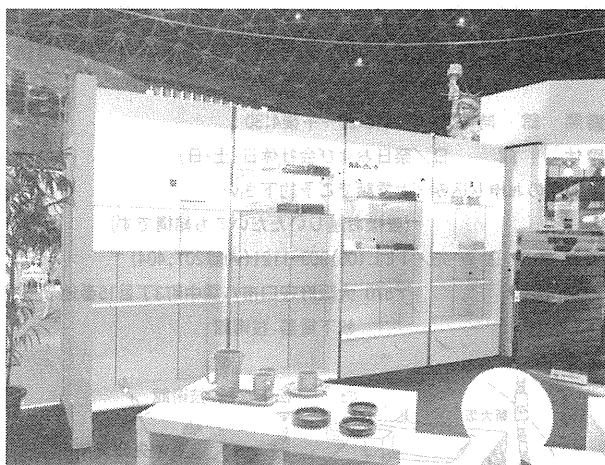
次の提案は店舗の照明システムです。売場づくりに於て、照明も大切な要素。省エネルギー性は勿論、その照明のもたらす雰囲気づくりにアンビエントライトを発表しました。この照明はH I Dランプによる照明を使い、店舗内の陳列商品に影をつくらず、しかも、省エネ性も高く、特に専門店での演出効果が非常に期待できる、全く新しい照明です。

次に、専門的向木製陳列棚「ニューパネロック」、商品のスポット陳列用ステージをシステムで考えた「ステージユニット」、木とクロームメッキを合わせ考えた、T字型脚を持つシンプルデザインの「Tバーライン」を発表しました。

専門店のお店づくりは、一作主義が従来の方法でしたが、この3つのシステムを使ってに加えて、このシステム用に



サービスいきいきコーナー
CVSカウンター



商品いきいきコーナー
ニューパネロック

開発したブラケットを使うことによって、デザイナーの意図を、自由自在に表現できる。それでいてローコストなシステム什器を提案いたしました。今、J I S規格に沿って什器の統一が進められていますが、今回発表した什器は、いずれもJ I Sに沿っての製品であることをつけ加えておきます。

尚、'82ジャパンショップで発表いたしました商品は、いずれも、東京ストアショールームに展示してありますのでお気軽にお越し下さい。

東京ストアショールーム

港区赤坂3丁目3-3

TEL 03-586-4304

(本文のお問合せは 580-9361 関野英治まで)

OA, HA の見学はいかが

関西支部正会員の秋田嘉正さんから、勤務先の「松下電器・技術館」の見学ご案内が参りました。事前に、来阪の折連絡いただければ、店内係の方にジョイントして下さる由。内部はナショ研の竹岡リョウ氏のデザインとの事です。OFFICE AUTOMATIONやHOME AUTOMATIONは大変参考になるとのことです。ぜひ夏休みを利用して入館したいものです。尚、パンフレットによれば平均見学時間は2時間となっております。

- ・秋田嘉正会員（松下電器、技術開発推進センター、
電話 06-909-1121）
- ・「松下電器・技術館」パンフレットより、交通など以下のとおり。

■開館時間／午前8:30～午後4:30

■休館日／祭日および会社休日（土・日）

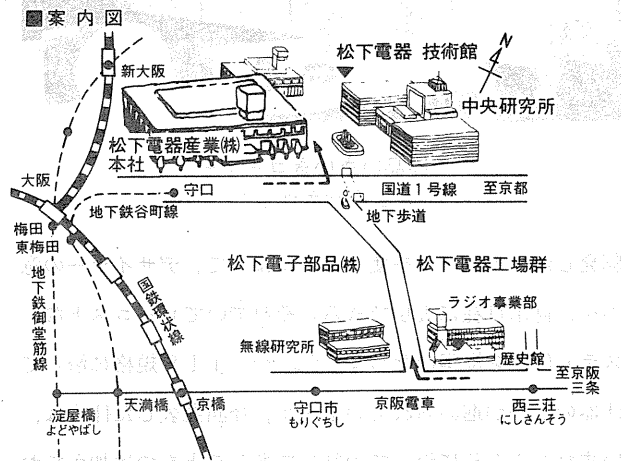
■見学のお申し込み／お電話でご予約下さい

（直接お越しいただいても結構です）

■お申し込み先／TEL(06)909-1121(内線207,404)

〒570 大阪府守口市八雲中町3丁目15番地

松下電器 技術館



■交通 [車]★新大阪駅より約30分

[地下鉄]★東梅田から谷町線で守口駅まで約15分

守口駅より徒歩15分。

★新大阪駅または梅田駅から御堂筋線で

淀屋橋駅下車。

京阪電車に乗りかえ、西三荘駅で下車。

徒歩15分。

協会賞と近況報告

1981 JID協会賞授賞式では皆様いろいろご配慮いただきありがとうございました。ご挨拶ができましたが、

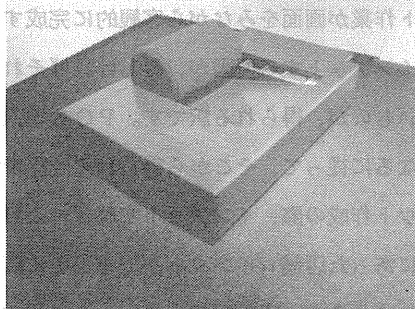
去る7月6日～11日、京都のデザインギャラリー二葉で、「丸い椅子たち — 山内陸平展」を開きました。お蔭様で、大盛況のうちに終了いたしました。内容は新しい生産方式と構造の椅子シリーズでございました。

今後ともよろしくお願いいたします。御礼とご報告まで。

（関西支部：山内陸平）

中村隆一展

5月25日(火)より30日(日)まで、京都中京区河原町通二條下ル、デザインギャラリー「二葉」において中村隆一展が開かれた。昨年に続く第二回展である。関西における家具の個展は非常にめずらしいものである。収納家具は昨年の作品にプラスするというか、細胞が次々にふえていく感じのデザインで、興味深いものであった。椅子と机を一しょにしたような家具は、ユーモアがあり、色っぽさもある独特の形が現れて、楽しいものである。ただ、椅子の機能



能としては、座るときはよいが、立ちあがるときに大変苦勞をするデザインになっている。老人にはむかないようだ。同氏は京都市立芸術大学を卒業後、日建設計に入社、多くの作品を発表され、現在は母校のインテリアの助教授としても活躍をされている。来年もこの楽しい個展を続けていただきたいものだ。（関西：藤川宏允）

サンフランシスコ便り(その5)

5月中旬から6月にわたり3週間ほど仕事でヨーロッパを回ってきました。タイトなスケジュールでしたが、あい間をみて、各国で活躍しているデザイナーや建築家にも数多く会うことができました。

経由先であるニューヨークの久々の印象はと云えば、相

変らずのビジネス本位のエネルギーのすさまじさといったところでしょうか。かつて貧しい芸術家たちが安い家賃で古倉庫の広い空間が得られるのに魅かれて集まってきていたソーホー地域など、いまでは多くの画廊に加えて高級ブティックが軒を連ね、朝から観光客がぞろぞろ歩いています。まあ、東京の原宿、赤坂、六本木というあたりの変貌の早さと似たようなもので、ニューヨークで東京にいるときのような気ぜわしさを感じてしまうというのも、結局のところ、この二つの都市が持っている共通点のせいには違いありません。

そんなニューヨークを後にして、パリからヨーロッパを回ってみると、これまた、以前と同じで、あたりがどこことなくゆったりとして感じられたものです。国にしる人にしる、一から始めて巨万を得るというような懸命さを持たずとも、土台ができていますから、何事も少しずつ積み上げて行けばいいだけのこと。焦せる気にもならない、というところでしょうか。街中を歩けば伝統遺産がぎっしりとあたりを埋めつくしていて、米国の素人っぽい造りを見慣れた身には、まずその重さがずしんと響いてきます。もっとも、旅人の目に魅力的なそんな情況も、その他の建築家などに云わせれば、苦言の対象らしい。伝統遺産の保護という立前から、建物の取壊しはもちろん、小さな改造に至るまで、いろいろな制約があることが多く、なかなか腕をふるう機会がなくて困る、というのです。建築ばかりではありません。家具にしても、輸出に比重がかかっているイタリーや北欧などでは、生産総量のうちモダン・デザインが占める比率もかなり高いのに、国内需要が大部分を占めるフランスなど多くの国々では、それはたかだか1割にも満たない、とデザイナーをばやかせています。しかし、そんな難かしい情況がかえって創造への挑戦意欲をかきたてることも多分にあると思います。古い建物の並びの間におしつぶされるようにしてはまりこんだ小さな新しい店舗などを見ると、それが思いもかけず前衛的な空間であった、というような経験が今回の旅でもままあったものですが、現代を生きる建築家やデザイナーがどれほどの情熱を持ってその空間作りに立ち向かったものか想像できるような気がしました。イタリーの家具の前衛性も、建築家が建築設計と同量のエネルギーと情熱を注ぎこんでいるせいだという説もあります。ポストモダニズムは、伝統の重さと現代

を生きる力とのこうした拮抗の中から生まれてきたものではないでしょうか。それは単に形態上の類似を求めるという表面的な問題ではないはずです。

ところで、フランスだけに限ってみれば、この国にはそういう建築やデザインの動きには我知らずという風がありながら、先端技術的なところには非常に意を注いでいる、といった感じがあっておもしろいと思いました。シャルル・ド・ゴール空港やボンビドゥ・センターがそうした例でしょうし、実用旅客列車として長らく世界一の速さを誇っていた日本の新幹線の位置を今年から獲ってしまったETなども典型的なものです。パリの西の新副都心デファンスに出かけたら、まったくモダン一色に塗りこめられた感じでしたが、驚いたのは、十年前に訪れたときにすでに工事中だったのに、いまだに工事が続けられているという事実。のんびりしていると云うのか息が長いと云うのか、おかげで、計画当初はかなり斬新に見えたのに出来上がったのを見ると、日本や米国の感覚ではもはや目新しいものではない、ということになりますが、そもそも、そうしたことは気にかけない国民性なのかもしれません。

イタリアでは私はミラノから鉄道を使って2時間ほどのボローニャにも出かけたのですが、その町中や帰りの列車の中でも、イタリア人の気さくさ、親切さに触れて、ますますイタリアが好きになってしまいました。ドイツのフランクフルトで会った友人が、その長い陰うつな冬をのりながらも、仕事上やむを得ずそこに長く住みついてしまっているという感じだったのに比べると、ミヤノやボローニャで会った日本人デザイナーや建築家は誰もが、その町を心底愛している風でしたが、なるほどと、わかるような気がします。ミラノでは、ちょうどその日、日本から着いたばかりという喜多俊之さんにお会いして、氏のデザインになるウィंकチェアーを制作しているカッシーナ社のショールームを案内していただいたり、夜まであれこれ話してんだりもしました。イタリアと日本をまたにかけて、それぞれで素晴らしい仕事をこなしている喜多さんのバイタリティにはつくづく感心させられましたし、勇気づけられたものです。

私がブルース・バーディックのもとで手がけたハーマン・ミラー社のためのエグゼグティブ用デスクシステム「バーディック・グループ」は昨年ヨーロッパでも発売さ

れています。今回、これを扱っているショールームを訪れ、営業やプランニングの担当者と話しをしてみると、予想していたこととは云え、やはり、米国とヨーロッパとのペーパーサイズの違いや電気関係の法規、基準の違いが問題になった例もある由でした。この点については、スイスとイタリアでヨーロッパ仕様が部分生産されることになっているので、遠からず解決されるはずですが、現在手がけている一般オフィス用システムでは、国際市場をめざすかぎり、このあたり相当許容度の大きいものにしなければならない、とあらためて難しさを痛感させられました。旅をしていても、ヨーロッパでは、コンセントアウトレットやプラグの形態が国ごとにまちまちなので困ってしまいます。私がイタリアで買い込んだプラグ用アダプターは、米国や日本で普通な2枚の板状ブローンのタイプを棒状ブローンを使うイタリア用とドイツ用に変換できるというたい文句でしたが、ドイツではプラグ全体を差込むアウトレットの穴に凸凹の有無による違いがあり、朝、洗髪後みじめにもドライヤーが使えなかったりしました。ECが中心になってヨーロッパ共通規格を作ろうとしていると聞きますが、なにしろ、すでに確立している各国の産業や既設建築などに大きな影響を与えるものですから、おいそれとは行かない、というのがもっぱらの評判です。米国でも、電気施工については、連邦の基準はあるにしても、各州、各市で独自の規制を作っていることが多く、やっかいなことこの上なし。まあ、こういう点からすれば、なにごともお上主^{かみ}導で全国統一規格が徹底している日本など(他の画一化についてはうれしくないもの)たいそう便利な国、と云っていいのかもしれませんが。

旅の最後に回った北欧では、公共福祉デザイン、ことに障害者に対するデザインの面で大変に進んでいるのに、あらためて感心させられました。ストックホルムではA&Eという若いデザイン事務所を訪れてそうした面の活躍ぶりをいろいろ見せてもらったのですが、彼らの秀れたデザインも、そういう道具や家具を国が買い上げて、必要な人に無償で貸し与える、という制度に裏付けられてこそ具体化できているに違いありません。地下鉄に乗ると、車輛の出入口が広く、しかもプラットフォームと車の床とが同じ高さですき間も小さいためでしょう、車内にはほんとうに数多くの乳母車を見かけました。

ヨーロッパから帰ってみると、ちょうど、日本の二大企業がIBMの秘密を探るために盗品と知りつつ多額の金で買いとっていたことがFBIのおとり捜査で暴露された事件が、新聞やTVで大きくとり上げられていたところで、大変にショックでした。事件の起こったのがサンフランシスコから車で1時間ほどのいわゆるシリコンバレー一帯であったことと、サンフランシスコはかつて反日運動がもっとも過激だったという土地柄を反映して、当地のジャーナリズムが多分に過剰に反応しているということはあるでしょう。また、FBIがからんでいることから、かえって、何かしら仕組まれた筋書きがありそうな気がしないでもありません。しかし、報道をいろいろ読んでみると、どうも、「火の気の無い所に火事は起こらぬ」のことわざ通りのように思われます。「産業スパイなど、どこの国でも日常茶飯事で、今回の件は、たまたま運が悪かっただけだ」という論調が日本にある、という報道がありましたが、本当だとすれば、これはちょっと情けない。「日本は外国のまねをして、改良するだけで現在の地位を得てきたのだ」という評価が、これまでに海外で定着してしまっている現実を考えれば、開発の種を他人に負うことなど意地でも避け、独自のものを打ち出して、これまでの評価をくつがえして行くのが筋ではないでしょうか。日本を離れてデザインという仕事にたずさわっていると、自分自身の存在価値を認めさせるには、自分自身のオリジナリティを十分発揮する以外にない、と思い知らされます。秀れた成果がオリジナリティに裏付けられて出されれば、人は誰もが有無を云わず評価するのだ、という事実が、今回会ったニューヨークやヨーロッパで活躍中の日本人建築家やデザイナーの自信あふれた仕事ぶりを支えているように見えました。

(在サンフランシスコ・正会員：清水忠男)

会員の消息

- ◇ 嶋佐知子(暑中お見舞申し上げます。金沢では14～17日まで仕事と見学。18日丈自宅です。変に忙しく出来ないません。8月は10日～20日まで東京におられます。皆様によろしく。御体 御大切に。
- ◇ 佐藤弘光(ごぶさたしております。会社を設立して今年の8月1日にて満10年になります。このたび、機会

を得まして事務所を新しくしました。私の机から新宿御苑が一望できるところです。心も新に創造意欲をかき立てております。今後ともよろしく。

・ 暑中御見舞を次の方よりいただきました。

高木茂雄，福岡喜久雄

●会員の移動

正 会 員

会 員 名	移 動 事 項	新
岩 倉 栄 利 (関 東) P 34	自 宅	〒153 東京都目黒区目黒4-20-22-301 レジオン祐天寺 電話 03-793-3753
矢 吹 宏 (関 東) P 101	自 宅	〒150 東京都渋谷区渋谷2-6-8 ST青山702号 電話 03-406-7137
大 木 雅 彦 (関 東) 新	自 宅	〒145 東京都大田区石川町2-2-5-302
佐 藤 弘 光 (関 東) P 60	事 務 所	ピークル・マーケティング・プロデュースセンター 〒160 東京都新宿区新宿2-1-3-801 サニーシティ新宿御苑
岩 澤 晴 彦 (関 東) 新	自 宅	〒204 東京都清瀬市中清戸5-72-8-3 電話 0424-91-7812
向 井 修 二 (関 西) P 139	勤 務 先	(8 月末日迄) 電話 06-380-1633 〒564 大阪府吹田市江坂町1-13-18 三精ビル 3F (9 月1日より) 電話 06-380-1633 〒564 大阪府吹田市江坂町1-23-5 大同生命江坂第2ビル 6F
寺 原 芳 彦 (関 東) P 76	事 務 所 自 宅	BY・STEP 電話 03-723-9264 〒158 東京都世田谷区奥沢5-11-9 秀和自由ヶ丘レジデンス107 電話 03-724-5762

準 会 員

脇 田 正 彦 (関 東) P182	勤 務 先	住友軽金属工業(株) 商務部商務課 〒105 東京都港区新橋5-11-3 新橋住友ビル 電話 03-436-9800
江 島 太 士 (九 州) P187	自 宅	〒877 大分県日田市朝日ヶ丘576-54

(株)くろがね工作所 新	担 当 者	オフィスプランニングセンター 米 山 俊 之 (内線35)
(株)サンゲツ P201	担 当 者	企画課主任 奥 村 和 明
スナバ産業(株) P203	担 当 者	営業部長 畑 野 幸 弘
(株)リパコ P197	担 当 者	企画室 伊 藤 雅 紀

●会 議

〔 7 月 〕	17 日	渉外委員会	〔 予 定 〕
5 日 渉外委員会	19 日	東京を美しくする会	27 日 総務委員会
6 日 事業委員会		インテリア産業協議会	30 日 第2回理事会
13 日 野口記念賞説明会	23 日	デンマーク報告会	31 日 朝日新聞本社見学会
16 日 広報委員会		(渉外委員会, 関東事業支部委員会)	(関東事業支部委員会)

寄贈図書 (・印寄贈者)

・桜井定雄	THE WINDOWS BOOK／窓装飾	7. 8	トーソー出版(株)
-------	----------------------	------	-----------

インテリア産業振興対策委員会 中間報告書から(第2回)

5. インテリア産業界における資格、検定などの現状

インテリア産業関連業界において、現在、実施されている資格・検定などは、各種さまざまであるがそれを大別すると、二つに分けることができよう。

一つは団体の会員であることを資格とし、その資格によって一つの水準を維持しようとする考えのもので、(株)日本建築家協会、(株)日本インダストリアルデザイナー協会、(株)日本インテリアデザイナー協会、日本デザイナークラフトマン協会などがそれである。

もう一つは、資格認定を行うことによってインテリア関連産業の技術水準の向上を図り、併せて、販売促進、

従業員対策などを進めることを目的とするものであり、(株)商業施設技術団体連合会、日本インテリアデザイン協会、日本優良家具販売協同組合及び(株)日本室内装備設計技術協会などがそれである。

ここで、後者の場合について説明を補足すると、次のとおりである。

(1) 商業施設士(株)商業施設技術団体連合会実施)

商業施設についての計画、工事管理及び商業施設に係わる環境保全をその主たる業務とした商業施設士の研修と検定試験が実施されている。

(2) 販売士(日本商工会議所が実施)

小売業に従事している人に対し自己啓発のための目標と刺激を与え、小売業の合理化、近代化の核となる優れた人材を育成することによって、わが国小売業界

の向上発展に寄与しようとする目的のもとに毎年販売士の検定試験が全国で行われている。資格には、1級、2級、3級の区別があり、3級段階の試験出題区分表には、家具敷物インテリア等具体的商品品目を掲げ、試験が実施されている。

(3) 消費生活アドバイザー（通産大臣告示）

昭和55年より通産大臣告示による消費生活アドバイザー認定登録制度が発足した。

消費生活アドバイザーは、主として企業内において、消費者からの苦情相談等の各種の相談に応ずるとともに、消費者がどのような意見を持っているかを把握して、これを企業内における商品、サービスの改善に反映することを任務とし、これを通じて、消費者利益の保護及び企業の消費者志向体制整備の促進を図ろうとするものである。

(4) 照明コンサルタント（社照明学会が実施）

照明関連業務に携わる人達の実務に役立つ講座を10か月にわたる通信教育と1日のスクーリングによって実施し、合格者に認定証により照明コンサルタントの称号を与えるものである。

(5) 2級・3級コーディネーター（トヨタ・ベッドが実施）

現在までの2級及び3級についてのみ実施されている。3級コーディネーターとして望まれる資質は、トータルインテリアについての通常の販売の知識、パースレイアウト技術及びコンサルティング技術となっている。

2級コーディネーターについては、家具事業環境、具体的表現技術、商品管理、コンサルティング等について資質が要求されている。

なお、以上の資質養成を図るために、2級は6日間40時間余、3級は3日間21時間余の講座時間制カリキュラムが組まれて研修が実施されている。

(6) 室内装備設計士（社日本室内装備設計技術協会実施）

船舶、車輛、航空機を含め室内装飾の設計及びその工作の監理等を行う技術者の資格を定め、その技術の研究、練磨、向上を図り、もってその業務の適性を期し、業界及び技術者の地位の確立向上と国民文化、経済の発展に寄与することを目的としている。

年1回、検定又は認定を行っており、既に20年の実績を有している。

(7) 国の行う技能検定制度

職業訓練法に基づき、国が行う技能検定制度は、労働者のもつ技能を一定の基準によって検定し、これを1級または2級〇〇〇技能士として公証するものである。その目的は技能者の技能習得意欲を増進させるとともに、技能及び職業訓練の成果に対する社会一般の評価を高め、労働者の技能と地位の向上を図り、ひいては我が国の産業の発展に寄与しようとするものである。

技能検定制度は、昭和34年に始まり、昭和54年までの過去21年間の受験者数は約209万9千人、合格者は約88万9千人に達し、昭和55年度現在検定職種は、113職種となっている。

インテリア関連職種は、次のとおりである。

板金、木工、石工、建築大工、とび、左官、ブロック建築、タイル張り、畳製作、配管、浴そう設備施工、鉄筋組立、防水施工、床仕上げ施工、カーテン施工、天井仕上げ施工、サッシ施工、ガラス施工、建築透視図製作、建築製図、いす張り、表装、塗料調色、塗装、広告美術仕上げ、舞台構造調整等。

6. 必要な人材・能力

本委員会は「今後の望まれる人材」をテーマに種々の調査検討を進めてきた。専門委員会において、関連業界の実務経験者（主として経営者）及び有識者を対象とするヒアリングを繰り返し行ったところ、必要な人材、能力等についての具体的な指摘は得られなかったものの、業種、業態にかかわらずインテリア製品販売におけるソフトウェアのビジネス展開が今後必要とされるとの声が強かった。

特に、小売業、施工業などの流通末端では、今までのようなエレメント単体を主体とした販売志向では、需要の変化に対応しきれなくなることが明白となり、需給のギャップを埋める新しい問題解決の対策を立て、適切な受注活動を通じて、需要者のトータルインテリアへの欲求に応えなければならないと考え始められている。

そのため、人材的側面では、インテリアコーディネーターの育成が強く望まれている。

インテリアコーディネーターの像については、かなりの幅はあるものの、インテリアコーディネーターに要求される資質を「住宅など建築物の新築、増改築、改装などの需給の接点で、発注者の要求する住空間の条件を適確に把握し、豊かな住空間のイメージ及びスタイルを提案し、かつ、それを実現するために必要な計画・設計、インテリアエレメントの選択、主要見積、施工計画及び管理を行うことができること」とする点でおおよそ一致点を見ることができる。

さらに、別の言葉で表現すれば、インテリアコーディネーターは「インテリアエレメントに関する豊富な知識を有し、それらを統合して豊かで住みよい住まいをつくるための助言と提案のできる人材」ということになる。

インテリアコーディネーターを以上のように定義すれば、その具備すべき資質と能力は、次のようになる。

- ① インテリアに関する専門的な知識があること。
- ② インテリアエレメントの商品知識、施工技術に関する知識があること。
- ③ インテリアに関する積算、見積り、施工計画の立案などができること。
- ④ インテリア関連商品の流通に関する知識があること。
- ⑤ 建築一般、関連法規、建築図面など関連分野の基礎知識があること。
- ⑥ デザインの基礎的な表現力があること。
- ⑦ 商品販売の基礎的な知識と技術があること。
- ⑧ インテリアに関する情報収集及び管理の能力があること。
- ⑨ インテリアを統合する技術と知識があること。
- ⑩ 豊かな生活体験と客観的で公正な判断力があること。
- ⑪ その他関連する知識と能力を有すること。

以上のように広範囲にわたる知識と技術的素養を備えていることが望ましいが、これらはすべてが教育、研修等で養成されるものではなく、実務経験によっても培われるものである。

7. 人材育成の強化、促進

インテリア関連業界に限ったことではないが、経営環境条件の変化、とりわけ、需要の多様化、高度化に対応するためには、人材育成の強化、促進が企業にとって日常的命題であるとともに、最重要課題でもある。

人材育成の必要性やその程度・内容は各業界、各企業によって異なることは言うまでもないが、インテリア関連業界においては、供給側の情報サービス、巾広い専門的な技能知識が欠落しており、これを補完するものとして、インテリアコーディネーターの必要性が認められている。

人材の育成は、一般的には学校教育、公的機関、団体などの他、教育、研修を主とする民間企業などによって行われる。

実際に業界や企業が必要とする人材の育成は、これらの機関の行う多様な教育、研修が相互補完することによって可能となる。

すなわち、学校教育では基礎的な知識、能力の修得に主眼があり、公的機関による教育、研修では産業界全般にわたる実務レベルでの情報入手に重点があり、団体や民間企業による教育、研修では、専門化、分業化された分野での知識や技能の修得に的が絞られよう。

これと並行して、各企業における企業内教育が充実されて、はじめて実務レベルでの必要な人材が育成されることになる。

今後インテリアに係る人材育成の強化、促進を図るに当たっては、現存する教育、研修機関の教育、研修の内容や方法を見直す必要がある。

インテリアに係る人材育成に関連するそれぞれの機関の機能は前述したとおりであるが、具体的にどのような立場にある人材をどのように育成するかが当面の問題である。

誰を対象として人材育成をするかについては、新たな人材を育成する方法と、既に実務に就いている者に対して能力開発、再教育を行う方法、すなわち、手持ちの人材の有効利用の二つの方法があるが、当面の対策としては、手持ちの人材の能力開発、再教育にポイントを絞った人材育成の方法が一般的であろう。

事務局短信

- 長崎県の大水害が胸を痛めます。J I D会員で長崎在住の方々は以下の通りです。

(正会員) 小川 欣一さん

〒850 長崎市上町2-12

電話 0958-23-1808

(準会員) 石中 法文さん

〒851-04 長崎県西彼杵郡三和町大字
蚊焼2422-16

電話 09589-2-2343

事務局よりお見舞いをいたしました。

- 今月号は例年になくコンペ案内や事業報告などボリュームあるニュースになりました。
- 図書案内 「THE WINDOWS BOOK／窓装飾」会員特別価格12,000も申込みが多く嬉しい限りです。
- 新年度会費未納の方、至急納入をお願いいたします。
- 事務局の人事異動をお伝えしなければなりません。2ケ年間、事務担当で精勤された鹿児島美枝さんが7月末で退職します。ほんとうにごくろうさま。また、新任は朝妻昭子さんです。よろしくお願い申し上げます。

暑中お見舞い申し上げます。私こと、このたび事務局を退職することになりました。在任中は御不自由をおかけしたことも度々あったと思います。おわび申し上げるとともに、何かとお世話になりましたことを深く感謝いたします。事務局にいて何より楽しかったことは、他の職場では考えられない程の多くの方とお知り合いになれたことです。これから変らぬおつき合いをしていただけたらと、願っております。時節柄、皆様くれぐれもご自愛のほどお祈り申しあげます。

(鹿児島美枝)

うっとうしい梅雨空とにらめっこの毎日、そろそろ真夏の太陽が恋しいこの頃でございます。此度、御縁がありまして、協会に勤務させていただくことになりました。毎日毎日新しい出会いに、まごまごしておりますが、一生



懸命はげみたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。会員の皆様にも御不便をおかけすることと存じますが、どんどんお教えいただき、少しでも早く、鹿児島さんにおいつきたいと考えております。会員の皆様のな

(朝妻昭子)

- 今年は子供たちには一寸遅い夏です。よきパパとママになれるでしょうか。
- 事務局の夏休みは以下の通りです。ご不便をおかけしますが、ご協力のほどを。

(山品 元)

8月13日(金)

16日(月)

17日(火)

JID NEWS 1982/8

毎月1回発行 頒価250円

昭和57年8月5日発行

発行・社団法人 日本インテリアデザイナー協会

(日本インテリアデザイナー協会月報1982年通巻116号)

編集・社団法人 日本インテリアデザイナー協会総務委員会

中村圭介・川野明・増本敏治・山田晃・山下礼子・

高田紀久枝・杉富士雄・鈴木栄二・山品元・前原誠・

下島資子・佐藤勝・古谷悟嗣・藤川宏允(関西)

印刷所・広洋印刷株式会社

振替・東京8-76389